



大学で囲碁を学ぶ

■ 吉原 由香里

囲碁が大学の授業に取り入れられるようになって7年になります。最初は東大でした。その後、東邦大、慶大、早大と増えていき今では10校になります。

囲碁を学ぶことにより、一般教養のみならず、先を読む力、論理的思考力などを養うことができる人気授業になっています。

私も3校で教えていますが、最初はまったく打てなかった学生がどんどん強くなっていく姿はなんとも頼もしいです。ゼロからスタートして9月から1月の1学期間で5級程度になる学生もいます。他の学生も19路盤で十分打てるようになり、平均して15級程度にはなります。19路盤で終局まで打てるようになれば生涯楽しむことのできるレベルであり、囲碁のテレビ番組が理解できるようになります。

以前、囲碁は「難しい」というイメージがありましたが、近年、教え方が進化しており、吸収の早い学生が対象なら「すぐ打てるようになる」というのが実感です。これからますます教え方は進化していくでしょうから、囲碁はもっと親しみやすいものになっていくでしょう。

授業を行うことは私にとっても大きな収穫があります。それは、学生たちのどんどん強くなっていく姿です。新しいことに触れても、目に見えて強くなっていく姿をみていると、「できない」というのはまったくの思い込みで実は「何でもできる」という気にさせてくれます。

そういえば私自身、初タイトルを獲る前はこの「できない」という思い込みを強く持って

■ 吉原 由香里
公益財団法人日本棋院 棋士

1996年入段、2007年女流棋聖獲得、以降3連覇。同年東邦大学客員教授、2008年東京大学特任准教授、2010年慶應義塾大学特別招聘講師。



いました。それが取れたきっかけは、碁のできない友人が「簡単に強くなれる気がする。五段なんてすぐだ」と言い、それを聞いた私は「まさか」と思っていました。実際友人は1年で初段になりその後すぐ五段になったことでした。この姿を見て「彼がゼロから始めてすぐ五段になれるなら、私がタイトルを獲るほうが簡単かもしれない」と思い、実際、その1年以内にあれほど大きく感じていた壁を取り払い、タイトルを獲得できたのでした。

目の前でどんどん成長していく学生の姿は、つい「できない」と思ってしまう私に大きなエネルギーを与えてくれるのです。

そしてもう1つの楽しみは、学生たちとの出会いです。教壇に立つようになって初めて経験したことですが、授業を行っていると日増しに学生たちに愛情がわいてきます。強くなっていく学生も、なかなか成長しない学生も、突然飛躍する学生もそれぞれとても愛おしい。そんな学生たちにとって役立つ授業になったら、とこちらも必死です。その思いが伝わってか授業が終わってから数年経って「就職が決まりました！」と頼もしい姿で挨拶をしに来てくれる学生もいます。

囲碁の魅力は何ですか？と聞かれると、深遠なる思考の世界を知る面白さに加え、「多くの人に出会えることです」と答えてきた私ですが、今まさにそれを体感しています。これからますます囲碁の授業が広まってほしいものです。

